

第7回 これからの学校づくり検討委員会 議事録概要

日時	令和4年7月15日(金) 18:30~20:10
場所	海陽小学校 1階多目的室
出席	別紙出席者名簿のとおり  市教委：教育長、教育部長、教育部次長、指導参事、椎名指導主事、棟方指導主事、山口学校教育課長、松尾学務係長、山本教職員係長、船橋教育総務課長補佐、土橋教育総務係長、林教育総務課主任、菊地教育総務課主事、松浦教育総務課主事
内容	<p>配布資料：委員会次第 これからの学校づくり第7回検討委員会 時間進行の目安、班分け資料 登別明日中等教育学校及び私立中学校等への室蘭市からの入学者について コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の仕組み 令和16年度までの、市内小中学校の児童生徒数の推計値【事前配布】</p> <p>次第</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前回質問への回答             <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 登別明日中等教育学校への室蘭市からの入学者について</li> <li>2) コミュニティ・スクールに関する説明</li> </ul> </li> <li>○ 意見交換(ワークショップ)</li> <li>○ 教育長挨拶</li> </ul> <p>○ 前回質問への回答</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 登別明日中等教育学校への室蘭市からの入学者について 質問等持になし</li> <li>2) コミュニティ・スクールに関する説明 ○今まで評議員と言われていたコミュニティー・スクールの学校運営協議会と何か違いはあるのでしょうか。</li> </ul> <p>市教委：新たにコミュニティー・スクールの委員としてなっていただきます。評議員という形ですと学校側からの情報が一方的に流れてくるというイメージがあると思うのですが、今回は、先程もご説明しましたとおりコミュニティー・スクールの学校運営協議会の地域の方々から先生に対して細かい議論をして良いということになっております。もう一つは、承認という行為が明記されておりますので、校長先生が学校の運営方針に関してお話をさせていただき、その場で承認という行為がないと次のステップに進めないということでございます。評議員ですと、承認という言葉ではなくて説明を受けてそれぞれが判断するようなイメージがあると思います。ニュアンスの違いはありますが、大きな違いは、会として承認をするということと、先生に対して意見が言えるということとです。</p> <p>○評議員という表現はもう無くなるということによろしいでしょうか。</p> <p>市教委：評議員会は無くなり、学校運営協議会へ変わっていくということで考えていただけたらと思います。</p> <p>○今現在はあるのですか。</p>

市教委：まだ転換していない地域もありますので、これからコミュニティ・スクールを立ち上げて今後はそちらに移行していくイメージです。既にコミュニティ・スクールのある学校は、評議員を開催しておりません。

## ○ 意見交換（ワークショップ）

テーマ どんな学校の形が望ましいか 【C→B→A 班の順で発表】

<市教委よりスクリーンへ資料を投影し説明>

### 【各班発表】

#### C 班

○ C 班では、4年後～5年後そして10年後を見据えて考えてみました。適正配置と小中一体となった教育を行っていくために、優先順位をつけていきました。優先順位では白蘭小・本室蘭中地区が5年後には200人を切る校区ということで、第一に考えていくべきではないかと考えました。2番目については、星蘭中学校が10年後には66人でオール1クラスになってしまうということで、単体での存続が難しい地区ではないかと思えます。3番目については港北中学校ですが、こちらでも10年後には単体での維持が難しいのではないかと思えます。4番目については地球岬小学校ですが、単独でぎりぎりのところではないかと同じました。

まず、1番の白蘭・本室蘭地区については、校舎のことも考えた上で、義務教育学校としていく案を1ついただきました。メリットとしては、職員のスキルの向上として中学校の先生方は生徒指導のスキルが秀でていることから、それを小学校の先生にも伝えることができ、また反対に中学校の先生方は低学年の子たちに丁寧な指導をするという部分でも学んでいくことが多いと考えています。それから、授業という部分では、免外の乗り入れということで、特に芸体系について学校規模が小さくなっていくと免外の先生が増えてしまうということで、校舎が近いという部分でも白蘭・本室蘭も義務教育学校としてモデル校としていくという案をいただきました。その上で、港北中学校は優先順位3番ですが、ゆくゆくは白蘭・本室蘭の方へ統合もしくは、義務教育学校の出来を見てこちらでも蘭北・港北中学校での義務教育学校の検討ができるのではないかとのお話をいただきました。星蘭中学校の地区については、距離が近いということで、室蘭西中学校との適正配置・統合という案もいただきました。適正配置と義務教育学校を併設していくことで、さまざまな意見や要望があるかもしれませんが、まず白蘭・本室蘭中学校地区を義務教育学校のモデルとして進めていく案をいただきました。

それ以外では、学校選択制の話であったり、スクールバスでの移動の件もいろいろ考えた上でこのようなお話をいただきました。

#### B 班

○ B 班の話し合いの特徴としましては、4つの地区という話をいただきましたが、それぞれの細かい部分まで分析できた訳ではございません。室蘭全体を一つの地区そして室蘭にある地区ということで、全体的な議論をいただきました。

まず、最初から最後まで一つのテーマとしてあったのが、地区・地域という考え方です。現在4つの地区がありますが、そもそもみなと・室蘭西中学校であれば造船の方が多い地区、それから地球岬・星蘭中学校は製鉄鉄鋼の方が多い地区であり、一方ニュータウンや港湾の方々もいて、コミュニティーがそれぞれのところにあり、すでに形成されている人間関係があるのでなかなか崩せるものではないですし、崩したくないという議論からスタートしました。そして、学校づくりのところで関わってくるのは4つの地域と議論には上がらなかった3つの地域との格差も気になるところだという意見がありました。部活動についてもどのように考えていくと良いのかというお話もいただきました。統合によって活動場所が減り、広さも縮小されていってしまい良い傾向ではないという意見があったり、また一方で、それぞれの部活や少年団などが集まっていくことで、場所を固定しある程度の人数を確保しながら進められる良さもあるのではないかと

いご意見もありましたが結論までは辿り着けませんでした。

最後は、義務教育学校ということに絞って考えていきました。大きな地域と小さな地域があるが、義務教育学校になることでメリットがあるということはわかりましたが、元々大きな学校同士を併せて義務教育学校になるよりは、存続が厳しい小さい学校が義務教育学校になることによって得られるスケールメリットという部分を非常に重視していきたいという意見がありました。具体的に見ていきますと、最終的には、白蘭小学校・本室蘭中学校はやはり義務教育学校になることによってメリットが非常にある地域です。スケールメリットも得られるし、2つ一緒になることで地区割りも崩すことなく統合を迎えることができます。また子どもたちが無理にバス通学することもしなくて済みます。一方で、みなと小学校や室蘭西中学校は現状のみを考えるとそのままでも良いのではないかという辺りまで話が辿り着いたところです。

#### A班

○ A班の中で急がれると考えたのは、白蘭・本室蘭地区の義務教育学校です。さらに、喜門岱小学校の統合ですが、統合すると統合加配の先生が3年付くということでさらにメリットが増えますし、引き続き特認校としていくのはどうかという意見がありました。義務教育学校として特色と成果を出すことによって、魅力的になり人が集まってきて地域の活性化に繋がるのではないのでしょうか。

蘭北・港北地区はいずれ令和15年くらいから義務教育学校になるのではというお話ですが、こちらは2つ考えがあります。まず一つは、同じように地区に義務教育学校も含め学校を残すという考え方です。ただこちらの義務教育学校は、規模的に少し大きいのではないかという話がありました。一方もう一つの考えが、みなと小学校と地球岬小学校を統合する、室蘭西中学校と星蘭中学校を統合するということで学校が活性化したり、中学校の部活動が維持できるのではないかと考えています。

もう一つ全体的にですが、子どもたちの学びを選択できるように、江別市でやっているように学校を選ぶことも考え方としてはあるのではないかと考えました。

<検討委員会終了>